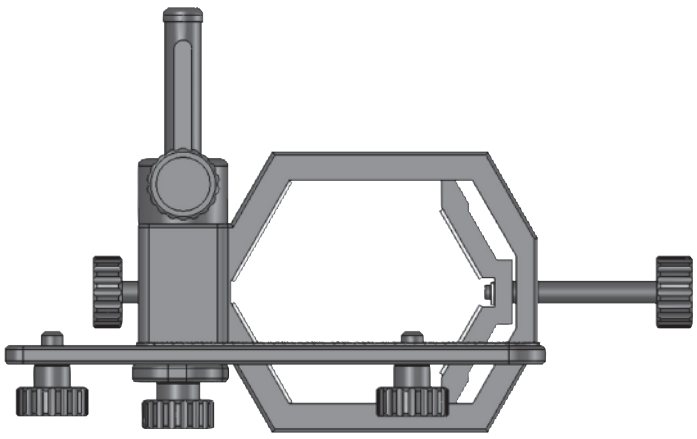
Vixen®

デジタルカメラクイックブラケット説明書



株式会社ビクセン
〒359-0021 埼玉県 所沢市 東所沢 5-17-3
[代　　表] TEL：04-2944-4000 FAX：04-2944-4045
[ホームページ] http://www.vixen.co.jp

55キ-9

はじめに

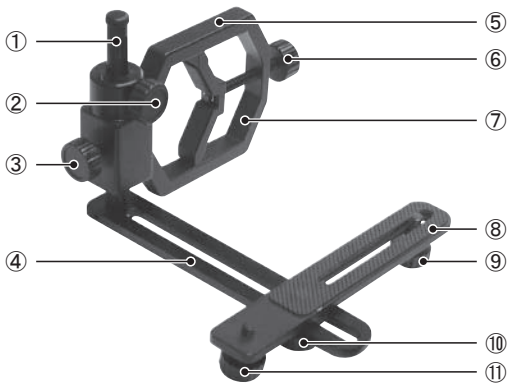
このたびは、ビクセン「デジタルカメラクイックブラケット」をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

※ 本説明書では、光学3倍比(135フィルム換算約35mm-約105mm)Zoom式コンパクトデジタルカメラでの撮影を前提に説明を行っております。単焦点、大きくF値が明るいレンズ、広角Zoom機、光学4倍比以上のZoom比を持ったカメラ(ビデオカメラを含む)などをスコープに接続した場合、ケラレや周辺減光が大きくでる場合があります。

※ スコープにカメラを接続したまま、絶対に太陽に向けないでください。カメラが損傷する原因となります。

セット内容の確認および、各部の名称

本製品には一部分解された状態で、以下のものが入っています。名称と合わせ、内容をお確かめください。



※ ⑪オプション固定ネジには高輝度スポットファインダーセット(別売)や、小型の自由雲台(社外品)などが取付けできるようになっています。正面から見てレンズ中心より右側が大きくせり出したカメラでは干渉する場合がありますので、取付けの際はご注意ください。

※ 三脚ネジ穴が、カメラ正面から見て右側にあるものは、ケーブルレリーズブラケット(別売)併用時にデジタルカメラクイックブラケットの機能に制限が出る場合があります。

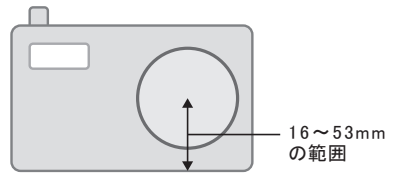
No.	名称(組み立てた状態で説明しております)
①	上下ガイドロッド
②	上下方向固定ツマミネジ
③	カメラリリースツマミネジ
④	前後方向ガイドプレート
⑤	保持クランプ枠
⑥	クランプ調整ツマミネジ
⑦	調整クランププレート
⑧	カメラ取付プレート
⑨	カメラ固定ネジ(W1/4)
⑩	前後方向固定ツマミネジ
⑪	オプション固定ネジ(W1/4)
No.	セット内容一覧
①	デジタルカメラクイックブラケット本体(①~⑦)
②	カメラ取付プレート部(⑧~⑪)
③	取扱説明書(本書)

取付けできるカメラのサイズ

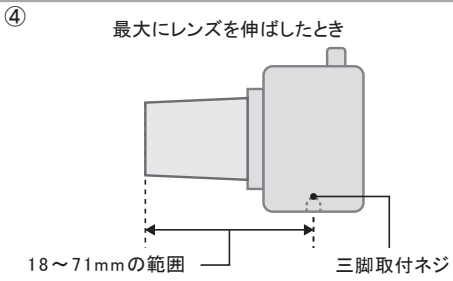
	接続できるカメラは下記の条件に合うものとなります。
①	カメラ底面に三脚取付ネジ(サイズW1/4インチ)が必要です。
②	重さ約300gまでのカメラ取付けを想定しています。それ以上重いカメラを取付けるとデジタル
	カメラクイックブラケットがたわむことがあります。
③	カメラ底面からレンズ中心までの距離が16mm～53mmの範囲にあるものに対応します。
④	カメラの三脚取付ネジからレンズ筒先端(最大に伸ばした時)までの長さが18～71mmの範囲に
	あるものに対応します。(※ フリップミラーに接眼レンズNLV20mmを使用した場合)
⑤	カメラの三脚取付ネジからレンズ中心までの横方向長さが53mm以内にあるものに対応します。
	(※ フリップミラー又は接眼レンズGLH20Dを使用した場合)

※ 取付ける機器によっては若干サイズが変わる場合があります。

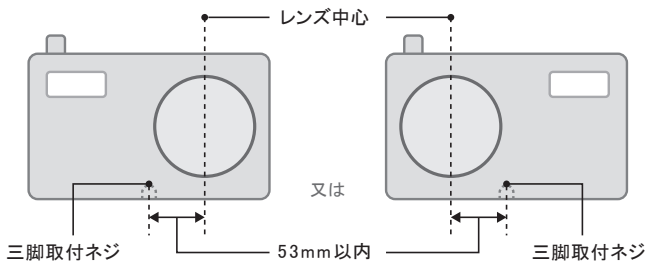
③



④



⑤

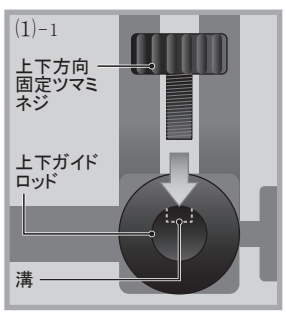


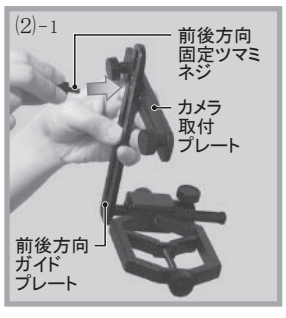
デジタルカメラクイックブラケットの組み立て方

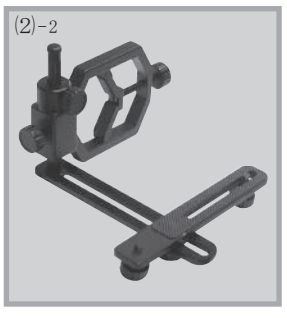
(1) ブラケット本体を箱から取出し、上下ガイドロッドの溝に上下方向固定ツマミネジがはまる様にねじ込みます。

この時、保持クランプ枠と前後方向ガイドプレートが直角にならない場合は、カメラリリースツマミネジを緩め、直角になるように調整してから、再度締めこみます。(クリックストップ機構が内蔵されていますので、直角の部分で手ごたえがあります)

(2) 写真のようにカメラ取付プレートを前後方向ガイドプレートの溝にはめ込み、前後方向固定ツマミネジを締めて組み立ては完了です。





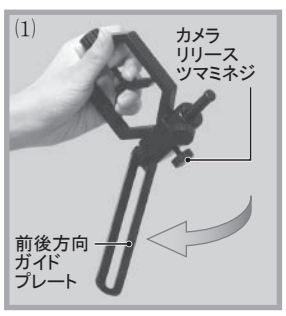


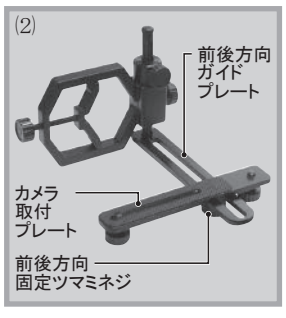
カメラの三脚ネジが(カメラ正面から見て)右側にあるカメラの場合は…

(1) デジタルカメラクイックブラケットの組み立て方(1)行い、その後、カメラリリースツマミネジを緩めたのち、前後方向ガイドプレートを180度回転させます。

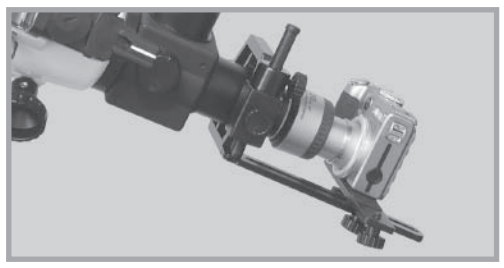
その後、保持クランプ枠と前後方向ガイドプレート直角になるように調整しカメラリリースツマミネジ締めこみます。(クリックストップ機構が内蔵されていますので、直角の部分で手ごたえがあります)

(2) 写真のようにカメラ取付プレートを前後方向ガイドプレートの溝にはめ込み、前後方向固定ツマミネジを締めて組み立ては完了です。

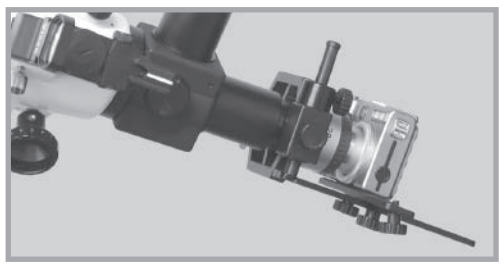




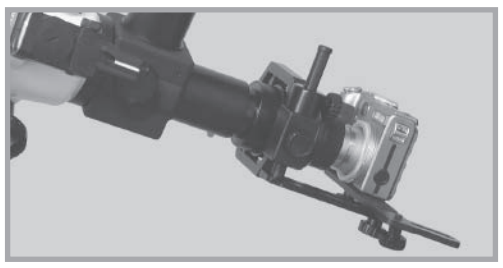
天体望遠鏡・フィールドスコープへの取付け例



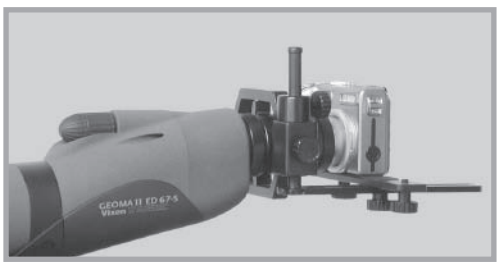
■ フリップミラーに取付けた例



■ NLVアイピースに取付けた例

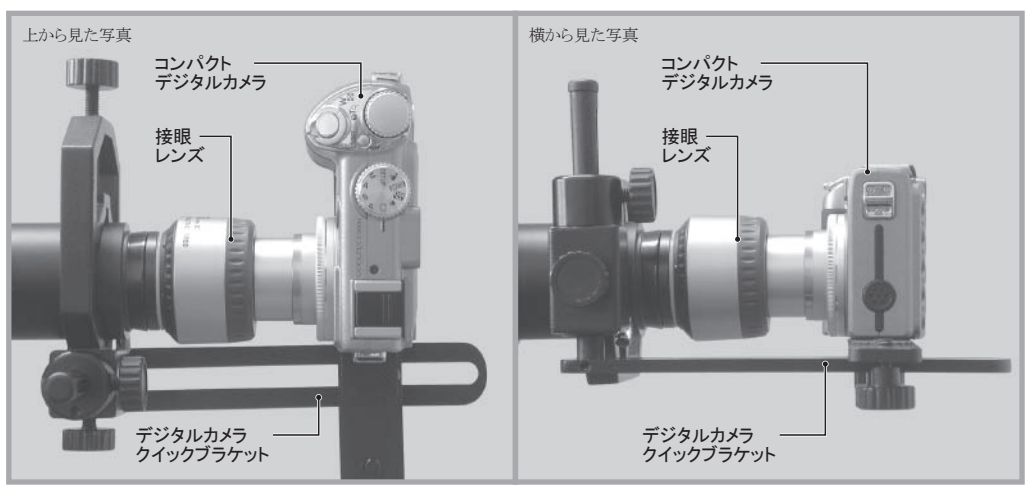


■ LVWアイピースに取付けた例

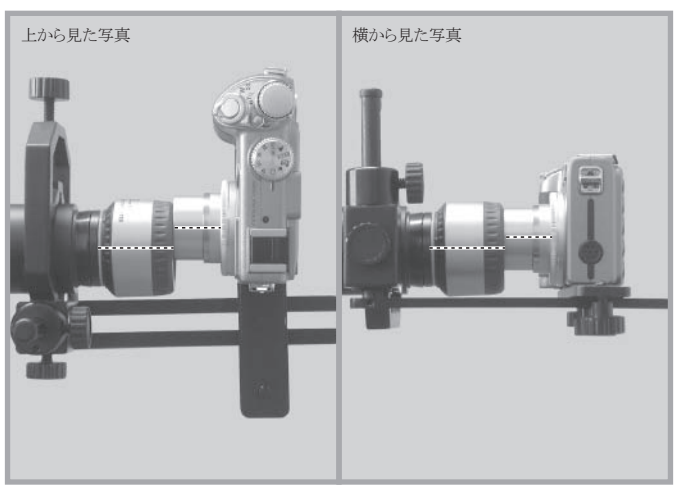


■ フィールドスコープに取付けた例

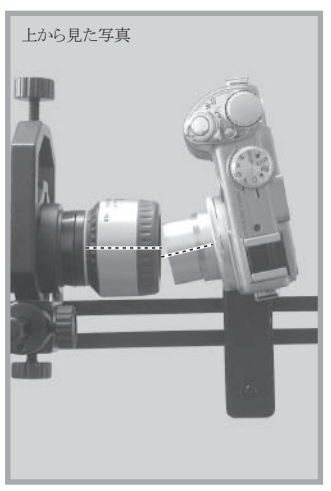
コンパクトカメラへの取付け方法



⑴ 写真を参考に、接眼レンズとカメラレンズの光軸が揃うように取付けを行ってください。
フィールドスコープへの取付けも同様に行います。



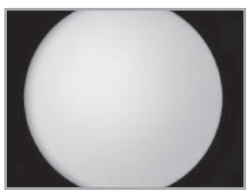
⑵ **悪い例**
レンズ中心が揃っていない。



⑶ **悪い例**
接眼レンズの光軸とカメラレンズの光軸が平行でない。

カメラと望遠鏡の最適な光軸調整方法

1. 説明書に従い、望遠鏡(接眼レンズ)に接続します。
2. カメラの電源を入れます。(レンズが広角側になっている事を確認してください。)
3. 白や均一な明るい色の壁などを導入します。
4. モニターに表示されるケラレや周辺減光が四隅で均一になるように調整します。
5-1. カメラを前後方向に動かし、写野が均一な明るさになるように調節します。
5-2. LV接眼レンズなど視野の狭いレンズでは黒くケラレた部分がシャープになる場所が適正位置です。
5-3. GLH20D接眼レンズなど、視野の広いレンズでは周辺減光が最も少なくなり、均一な明るさになる場所が適正位置です。
5-4. ZoomレンズによってはZoom位置(焦点距離)により、5-2. 5-3.の位置が変化するカメラもあります。被写体により調整を行いましょう。
※ カメラやスコープによっては、ケラレが少なくなるポイントが最適位置とは限りません。
6. 4と5の操作を繰り返し、最適位置を常に使えるように練習しておきましょう。
7. 接眼レンズとカメラレンズの隙間からの遮光不足でゴーストが出ます。
接眼レンズの見口を伸ばす事によりカメラレンズによっては遮光フードとしても利用できる場合がありますので積極的に利用しましょう。この時、操作によるレンズ衝突を起さないように注意が必要です。



良い例
明るさが均一
(LV接眼レンズ)

悪い例
明るさが不均一
(LV接眼レンズ)

良い例
明るさが均一
(GLH20D接眼レンズ)

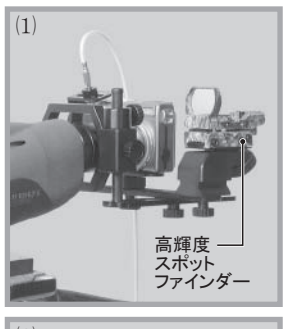
悪い例
明るさが不均一
(GLH20D接眼レンズ)

※ 光軸をしっかりと調整しないと、ピントが出にくくなることがあります。
また、背景が汚くなったり、被写体に色収差が出る場合もあります。
※ デジスコの場合、カメラのレンズがワイド側の方が明るく、シャッタースピードが速く切れますので、ブレの少ない綺麗な画像が撮影できます。遠くから望遠で撮影するよりも、近くから広角で撮影した方が大気の影響も受けにくく、更に画質の向上が見込めます。
※ GLH20D接眼レンズ使用時のイメージ写真はケラレがありませんが、カメラによってはケラレが出る場合があります。

オプションパーツの接続方法

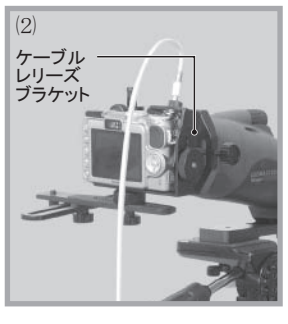
⑴ **高輝度スポットファインダーセット(別売)の接続**
デジスコ用途に便利な高輝度スポットファインダーを、写真のように取付ける事ができます。

※ カメラ三脚ネジが(カメラ正面から見て)右側にある一部のカメラでは、ケーブルレリーズブラケット(別売)併用時にご利用できないことがあります。



⑵ **ケーブルレリーズブラケット(別売)の併用**
ブレの防止、連写、長時間露出に便利なケーブルレリーズ(社外品)を取付けできる、ケーブルレリーズブラケット(別売)を、写真のように取付ける事ができます。

※ この場合、デジタルカメラクイックブラケットへ取付けできるカメラサイズは小さくなります。
また、カメラ三脚ネジが(カメラ正面から見て)右側にある一部のカメラではご利用できません。



綺麗な画像を撮影するには

■ ピントがしっかりと合った画像の撮影を心がける
カメラの液晶が大きかったり高精細ですと、ピントが合わせやすくなります。昼間のデジスコ撮影では、液晶モニターにフードをして影を作ると更にピントを合わせやすくなります。
また、一度に多くの連写を用いるのではなく、こまめな連写でAFの合焦点位置を変更させながら撮影すると全てが失敗写真になるリスクを回避できます。

■ 大きく撮る事は難しい
大きく撮りたいと思う余り、カメラのZoomを望遠にしたりすると、合成焦点距離が長くなりブレやすくなります。また、F値が暗くなる事によりシャッタスピードが長くなり、僅かな風や周囲の振動の影響でブレてしまいます。さらに、シャッタスピードが長くなり露出中に被写体が動いてブレてしまったり、非常に難しくなります。暗いから…とISO感度を上げると、今度はノイズで画質が悪くなってしまいます。

■ ブレさせないように撮影を心がける
機材のバランスがしっかりと取れていなかったり、ケーブルレリーズを使わなかったり、三脚や雲台・架台の強度が足りなかったり、周りを人が歩いたりして振動が起こるとブレた画像になってしまいます。
ですが、ただ闇雲に強度を上げても、重量が重くなるだけですので、機材に合った物を選ぶと良いでしょう。

■ やっぱり、経験が必要です
慣れない撮影で慌ててしまって機材を倒したり、各部の締め込みが足りずに機材が運搬中に落下したり、バッテリーの充電や機材の忘れ物をしたり、珍しい野鳥に出会ったときに興奮して慌ててしまったり…と実際にフィールドに出て撮影を行い経験を積む事によって、色々なトラブルの回避を行う事ができます。フィールドマナーを守って行動する事も忘れないでください。